

平成 21 年度 第 2 回札幌市自然由来重金属検討委員会

議事要旨

- 1 日 時 平成 22 年 2 月 4 日 (木) 14:00 ~ 16:15
- 2 場 所 札幌市役所本庁舎 12 階 4 号、5 号会議室
- 3 出席委員
委員長 五十嵐 敏文
(北海道大学大学院工学研究科教授)
委 員 伊東 佳彦
(独立行政法人土木研究所寒地土木研究所防災地質チーム上席研究員)
委 員 遠藤 祐司
(北海道立地質研究所地域地質部素材資源科長)
- 4 事務局出席者
札幌市環境局環境都市推進部 湯浅 正和 (環境管理担当部長)
妹尾 義正 (環境対策課長)
環境対策課
札幌市建設局土木部 田中 洋一 (工事課長)
工事課、道路課
- 5 議題
(1) 議題 1 土壤汚染対策法の改正の内容について
(2) 議題 2 自然由来重金属を含む建設発生土の取扱いのあり方について
(3) 議題 3 道道西野真駒内清田線トンネル整備における重金属対策について
- 6 配布資料
(1) 次第
(2) 出席者名簿
(3) 座席表
(4) 資料 1 札幌市自然由来重金属検討委員会のスケジュールについて
(5) 資料 2 - 1 改正土壤汚染対策法の概要
(6) 資料 2 - 2 自然由来の取扱いの考え方
(7) 資料 2 - 3 札幌市の建設発生土・開発行為の状況
(8) 資料 2 - 4 法に基づく汚染土壌の処理について
(9) 資料 3 道道西野真駒内清田線トンネル整備における重金属対策について

6 議事概要

(1) 開会挨拶(事務局 湯浅環境管理担当部長)

(2) 札幌市自然由来重金属検討委員会のスケジュールについて
事務局が資料1を説明
スケジュールの変更について委員から了承が得られた。

(3) 議題1 土壤汚染対策法の改正の内容について
議題2 自然由来重金属を含む建設発生土の取扱いのあり方について
事務局が資料2-1から2-4を説明
委員からの主な意見は次のとおり

- ・現状において、札幌市では自然由来重金属を含む土壤による地下水経由の健康リスク及び直接摂取の健康リスクは極めて低い状況にあることを前提として持つておくべき。
- ・現実的に採用できる手法を組み合わせ、合理的な取扱いを検討していくべき。
- ・バックグラウンドの高い地域では、まず搬出土壤を減らす方法もあるが、今後は各地域での土壤を移動する場合の管理が求められる。
- ・現場内埋め戻しであれば、バックグラウンドが多少高くても問題ない。また、一体となる区域内の土壤移動の考え方の中で、例えば、バックグラウンドの高い地域から高い地域への土壤の移動は問題ないであるとか、高い地域から低い地域への移動なら少し検討するなど、今後いろいろな可能性を検討していく必要がある。
- ・リスク管理で重要なのは面積ではなく体積であると考えするため、例えば、一定の面積以上で搬出量が多い場合には、現場で何点か土壤調査を実施するシステムを構築することも方法の一つではないか。
- ・可能な範囲で地下水の水質についての観測や既存データの整理を行っていくべきである。
- ・次回の検討委員会では、改正土壤汚染対策法に係る関係通知等を踏まえ、現実的な対応について議論していきたい。

(4) 議題3 道道西野真駒内清田線トンネル整備における重金属対策について
事務局が資料3を説明
委員からの主な意見は次のとおり

- ・対応の内容については適切にまとめられている。
- ・泥岩風化帯と泥岩新鮮部の混在部については、事前調査データを基に混合比率で対策を決めておく方法もあるのではないか。
- ・泥岩新鮮部については、現状で全て要対策土としているが、何回かに1回調査することで、要対策土を減らすことができるのではないか。
- ・崖錐堆積物については、土壤として扱うべきなのか、今後の改正土壤汚染対策法に係る関係通知等の動向を踏まえる必要がある。
- ・さらにコストを削減するべく合理的な管理や試験を追加検討していければと思う。

(5) 閉会挨拶(事務局 湯浅環境管理担当部長)